

令和元年10月9日

## 伝染性紅斑（リンゴ病）の流行について

### 1 概要

感染症発生動向調査事業に基づく、県内の伝染性紅斑の患者報告数が、第40週(9/30～10/6)に1定点医療機関当たり2.17人（患者報告数は78人）となり、4年ぶりに警報基準である2.0人を超えました。

感染予防のため、こまめな手洗いや咳エチケットを心がけることが大切です。

### 2 感染症発生動向調査事業

伝染性紅斑は、県内36か所の定点医療機関から報告があります。

	警報	
	開始基準値	継続基準値
1 定点医療機関当たりの患者数 (人)	2.0	1.0

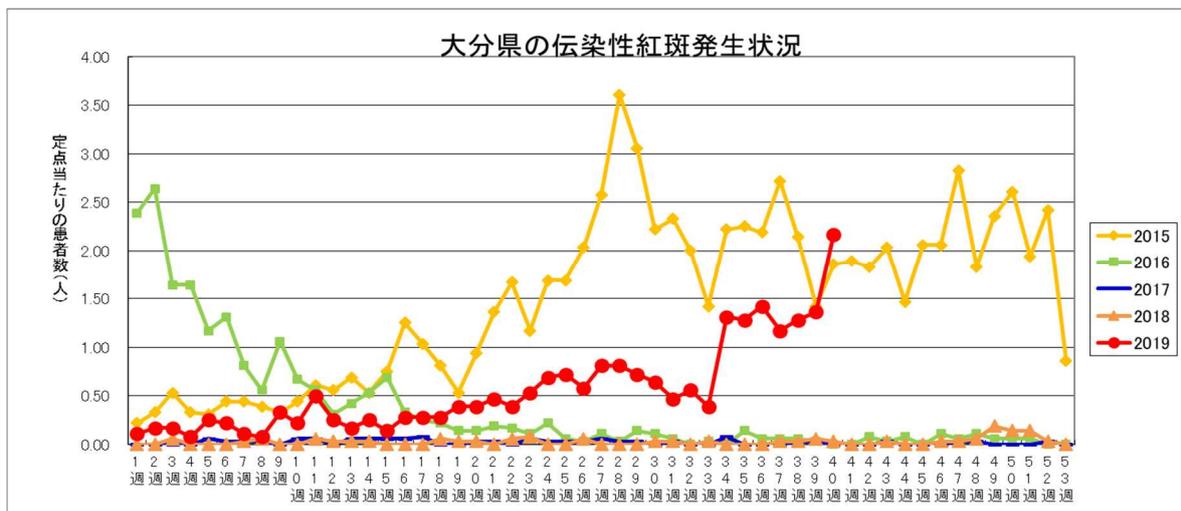
### 3 発生状況

#### 大分県の伝染性紅斑発生状況

2019年	週	日	大分県(定点36カ所)		全国	
			患者数	定点当たり	患者数	定点当たり
	29週	7/15 ~ 7/21	26	0.72	2,857	0.90
	30週	7/22 ~ 7/28	23	0.64	2,799	0.88
	31週	7/29 ~ 8/4	17	0.47	2,389	0.76
	32週	8/5 ~ 8/11	20	0.56	1,740	0.58
	33週	8/12 ~ 8/18	14	0.39	870	0.29
	34週	8/19 ~ 8/25	47	1.31	1,975	0.63
	35週	8/26 ~ 9/1	46	1.28	2,255	0.71
	36週	9/2 ~ 9/8	51	1.42	2,538	0.80
	37週	9/9 ~ 9/15	42	1.17	2,114	0.67
	38週	9/16 ~ 9/22	46	1.28	1,463	0.46
	39週	9/23 ~ 9/29	49	1.36	1,772	0.56
	40週	9/30 ~ 10/6	78	2.17		

40週	患者数	定点当たり
総数	78	2.17
東部	2	0.29
中部	19	6.33
南部	23	7.67
豊肥	0	0.00
西部	2	0.67
北部	11	1.83
大分市	21	1.91



## 4 感染予防策等について

### 【伝染性紅斑とは】

ヒトパルボウイルスB19の感染を原因とする感染症で、両頬に蝶形の紅斑が出現することが特徴で、小児を中心にみられます。両頬がリンゴのように赤くなることから、リンゴ病と呼ばれることもあります。典型的な症状を示さない症例や不顕性感染（症状が現れない）も多く見られます。

### 【症状】

感染から10～20日の潜伏期間の後、頬に境界鮮明な紅い発疹が現れ、手や足に網目状・レース状・環状などと表現される発疹が出現します。発疹は体幹部（胸腹背部）にも出現することがあります。

これらの発疹は1週間前後で消失し、成人では関節痛・頭痛などを訴えることもありますが、ほとんどの症例では合併症を起こすことなく自然に回復します。

発疹出現の7～10日程前に、微熱や感冒様症状などが見られることが多いですが、この時期にウイルス血症を起こしており、ウイルスの排泄量が最も多くなっています。発疹が現れたときにはウイルス血症は終息し、ウイルスの排泄はほとんどなく、感染力はほぼ消失しています。

### 【感染経路】

通常は飛沫感染または接触感染ですが、ウイルス血症の時期に採取された輸血用血液による感染もあります。

### 【予防について】

発疹（紅斑）の出現時期にはほとんど感染力を消失しています。また、ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さないため、効果的な二次感染予防策はありません。日頃から手洗いの励行や咳エチケット（咳・くしゃみをする際に、マスクの着用やティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえること）を心がけることが大切です。

妊婦が感染するとまれに流産等が生じるおそれがあるため、流行時期に感冒様症状の者に近づくことは避けましょう。また、周囲の方が伝染性紅斑に感染した場合は、妊婦健診時に主治医にその旨を伝えるようにしましょう。

### 【問合せ先】

大分県福祉保健部健康づくり支援課  
健康危機管理班 若松、高野  
電話:097-506-2668、2679